

令和3年2月16日

輪之内町教育委員会
教育長 箕浦 靖男 様

外部評価員 田中 耕

平成30年度評価「輪之内町教育委員会の権限に属する事務の管理及び
執行の状況」に対する外部評価について（報告）

令和元年12月「平成30年度評価 輪之内町教育委員会の権限に属する事務の管理及び
執行状況報告」（以下「第一次評価」という）の内容に基づくほか、すでに公開されてい
るインターネット情報、輪之内町教育要覧学校要覧などを含めて、外部評価を行いました
ので、下記のとおり所見をまとめてご報告します。

記

1. はじめに

第一次評価報告書の第1章では、評価方法、評価結果の概要及び詳細がまとめられてい
ます。第2章では、点検評価シートを用いて過去3年間に遡って各事業の詳細評価が示さ
れ、この評価シートに貴教育委員会の活動状況については「委員会会議の実施状況」、「調査
活動の状況」の2項目に分けて、それぞれ「活動実績」、「成果と課題」が記載され、「自己
評価」が示されています。また、学校教育については13領域、社会教育については7領域
の計23領域に区分して、それぞれの「重点目標」、「成果と課題」が記載され、それぞれの
領域に「自己評価」が示されています。

したがって、外部評価についても、第一次評価報告書の記載順の項目あるいは領域に沿い
ながら評価と所見を述べるものとします。

2. 点検評価結果と評定について

第一次評価によると、教育委員会の活動状況については「教育委員会会議の状況」、「調査
活動状況」ともに評価結果は「順調に達成している（A）」と報告されています。また、事務
事業の執行状況については「A 順調に達成しているもの」12/23事業（52%）、「B おおむ
ね順調に達成しているもの」11/23事業（48%）、「C 達成見込みであるが課題があるもの」
0/23事業（0%）、「D 順調でないもの」0/23事業（0%）として報告されています。

「C」、「D」評定が無く、「A」あるいは「B」評定のみであることから教育委員会の活動
や事務事業が円滑に執行されていると判断されます。

しかしながら、評価シートに記載の教育委員会の活動状況では、点検項目の年度評価では、
「順調に達成している」として、評定「A」とされているものの、「成果と課題」欄には、「成
果」に併せて「課題」が記載されています。本来、第1章に示されている「評定について」
によれば、課題がある場合には評定「C」となるべきと思われます。「成果と課題」の欄に、
次年度以降に解決すべき課題として記載するのであれば、むしろ「今後の対応方針」、ある

いは「今後の検討すべき課題」と記載してはいかがでしょうか。点検評価シートの記載方法についてご検討いただきますようお願いいたします。

3. 点検評価結果の詳細について

「学校教育」の執行状況については、評定と数値で評価され、これらの評価は教育の第一線で実際に勤務しておられる教職員の自己評価を反映した結果が示されていることに好感を持てます。また、現状にとどまらず次年度への課題についても明記されている点は評価に値すると考えます。PDCA サイクルの C（評価）にとどまらず、次のステップである改善（Action）を視野に入れて、次年度以降の参考あるいは課題の明確化によって前向きに内部評価されていることを高く評価します。

また、「社会教育」の執行状況についても、参加者の感想やアンケートなどから総合的に評価されていることから、実情を的確に反映させた評価になっていると考えます。

4. 各事務事業の点検評価シートについて

(1) 教育委員会の活動状況について

両点検項目とも、過去3年間に亘り「A」評定であり、良好で安定的な活動が円滑に実施されている様子が伺えます。

教育委員会の定例及び臨時会議の開催によって議案審議や教育情勢などについての活発な討議が行われていることについては大いに評価できます。また、町独自の課題として「輪之内町いじめ防止等のための基本指針」を取り上げ、基本指針の見直しを行うことができたとしている点については町教育委員会としての機能が正常に保持されていることであり組織機能の面から評価ができます。

調査活動の状況についても、全国総会あるいは県行事への参加によって積極的に情報を収集し、得られた情報の輪之内町の教育に還元し、教育水準の向上につながることを期待します。

〔課題〕として定例委員会や議事録の情報公開について挙げられていますが、すでに本報告書の作成時にはその一部をWEB上に公開しておられるなど、着実に課題対応されていることを高く評価します。議事録などをWEB公開することは、一般町民にとって理解しがたい教育委員会の活動の様子を広く町民に伝え、もって地域ぐるみで生徒を育てる意識の醸成につながることもできます。また、教育に対する住民理解の促進につながるものと考えて高く評価します。

(2) 「学校教育」について

年度ごとの評定に大きな変化がないものの、過去3年間の評価数値が、ほとんどすべての領域で上昇傾向にあることから、学校教育の水準がわずかながら経年的に向上していると考えます。しかしながら、領域「外国語活動」の評価が平成30年に大きく低下したこと、また、領域「進路指導」が連続的に低下傾向にあることから、その低下要因を明らかにして

今後の領域教育の改善を図られることを期待します。

さらに「C」、「D」評定は見られないものの、「B」よりも「A」評定が多くなるように一層の改善が望まれます。とりわけ、学校教育の要である領域「教科指導」については重点的に改善を図り「A」評定を目指されることを希望します。

(3)「社会教育」について

7領域すべてにおいて、3年間ほぼ連続的に「A」評定であることは、輪之内町の社会教育が順調に推移していることの表れであり、大いに評価できます。しかし、現状に甘んじることなく各領域での新たな課題の発掘や事業の重点化、あるいは社会教育や生涯学習に対する住民意識の向上を図るなどのたゆまぬ努力によって、より魅力ある町づくりが達成できるものと考えます。今後とも、一層の向上を期待します

5. おわりに

輪之内町教育要覧学校要覧を拝見し、輪之内町における学校教育の経緯、理念、目標、計画、施策など、教育を進めるうえでの重要基盤が整備・確立されていることに感銘を受けました。今後も、これらの方針に向かって自己評価及び外部評価を進め、PDCA サイクルの次の段階であるアクションにつながることによって、教育水準が一層向上し、輪之内町の人づくりに結びつくことを期待しています。

最後に、貴委員会が所掌されている事務内容について詳細な知識・経験のない当評価員が的外れのコメントになっていないか、あるいは要求過大な意見になっていないか危惧しながら、愚考にとまなう不要な所見の放念をお願いして、ご依頼への回答といたします。

以上